

平成 19 年 知床国立公園の利用について



知床五湖園地／地上歩道の混雑状況(7月30日)

目 次

1. 斜里町及び羅臼町の観光客入込み状況	1
1-1. 斜里町	1
1-2. 羅臼町	2
2. 知床半島先端部地区	3
2-1. 知床岬	3
2-2. 知床沼	5
3. 知床半島中央部地区	7
3-1. 知床五湖地域	7
3-2. カムイワッカ地域	9
3-3. ホロベツ地区	10
3-4. 知床連山地域	11
3-5. 羅臼湖地域	13
3-6. 羅臼温泉地区	14
4. 野生生物	15
4-1. ヒグマとの軋轢	15
4-2. 海域の利用と野生動物に対する影響	18

1. 斜里町及び羅臼町の観光客入込み状況

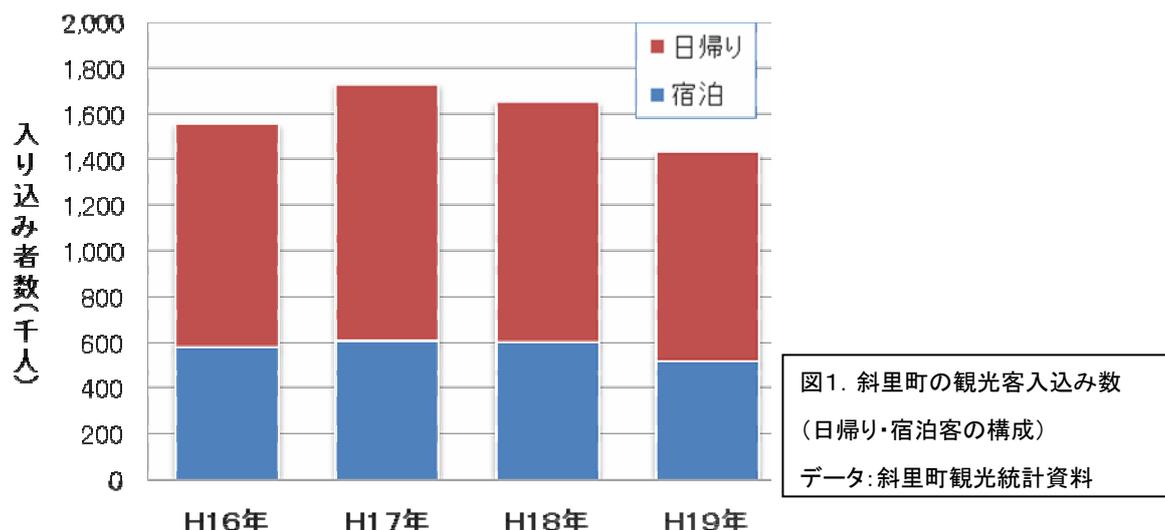
1-1. 斜里町

平成19年の斜里町における観光客入込み状況は、前年と比較すると各月において80～95%程度に減少しており、年間では約24万人、15%減となっている（表1）。日帰り客と宿泊客の内訳を見ると、前年は宿泊客が安定していたのに対し、今年は日帰り・宿泊ともに減少し、それぞれ前年の約15%減となっている（図1）。

表1. 斜里町の観光客入込み者数

データ: 斜里町観光統計資料

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H16年	21,145	124,670	85,081	30,737	91,980	135,958	207,738	311,706	250,628	233,760	33,530	29,648	1,556,581
H17年	23,459	137,952	90,300	28,818	78,682	133,809	220,703	367,075	303,464	281,680	40,107	25,980	1,732,029
H18年	21,226	112,241	79,528	32,320	90,857	153,120	220,876	338,800	281,044	264,948	34,273	27,215	1,656,448
H19年	20,130	99,406	60,846	29,244	73,808	127,320	197,498	314,627	239,800	216,823	32,116	2,4573	1,436,191
前年比	95%	89%	77%	90%	81%	83%	89%	93%	85%	82%	94%	90%	87%
前々年比	86%	72%	67%	101%	94%	95%	89%	86%	79%	77%	80%	95%	83%
H16年比	95%	80%	72%	95%	80%	94%	95%	101%	96%	93%	96%	83%	92%



3月、国道334号のルートが変更。4月、公園外において、斜里駅近くに道の駅『しゃり』が、ウトロに道の駅『うとろ・シリエトク』が開業。公園への入り込みへの著しい影響は見られないものの、公園までの利便性が向上。



道の駅うとろ・シリエトク外観



道の駅うとろ・シリエトク内の様子

1-2. 羅臼町

平成19年の羅臼町入込み者総数は前年と比較して約8万人の減少となった。月別に比較したときに最も入り込み者数が減少しているのは7月で、前年の74%となった(表2)。一方、日帰り、宿泊客の構成を見ると、斜里町では宿泊客、日帰り客ともに減少していたのに対して、羅臼町では宿泊客数は前年と比較してほとんど増減はなく、日帰り客数の減少が、入り込み客数全体の減少に影響している(図2)。

表2. 羅臼町の観光客入込み者数 年別比較

データ: 羅臼町観光統計資料

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H16年	3,608	6,870	5,959	10,182	75,637	53,537	151,562	200,434	132,020	63,184	5,932	5,418	714,343
H17年	3,830	6,745	6,596	11,020	58,120	66,199	173,095	211,834	140,869	67,053	6,409	5,782	757,552
H18年	3,903	6,824	6,994	11,074	59,316	67,797	181,889	214,053	127,258	67,682	6,429	5,858	759,077
H19年	3,856	6,938	6,827	10,539	57,106	67,309	134,526	189,506	128,978	68,627	6,682	-	-
前年比	99%	102%	98%	95%	96%	99%	74%	89%	101%	101%	104%	-	(90%)
前前年比	101%	103%	104%	96%	98%	102%	78%	89%	92%	102%	104%	-	(91%)
H16比	107%	101%	115%	104%	76%	126%	89%	95%	98%	109%	113%	-	(96%)

※平成19年合計値における、前年比・前々年比・H16比は、それぞれ各年の1月～11月の合計値との比較とした。

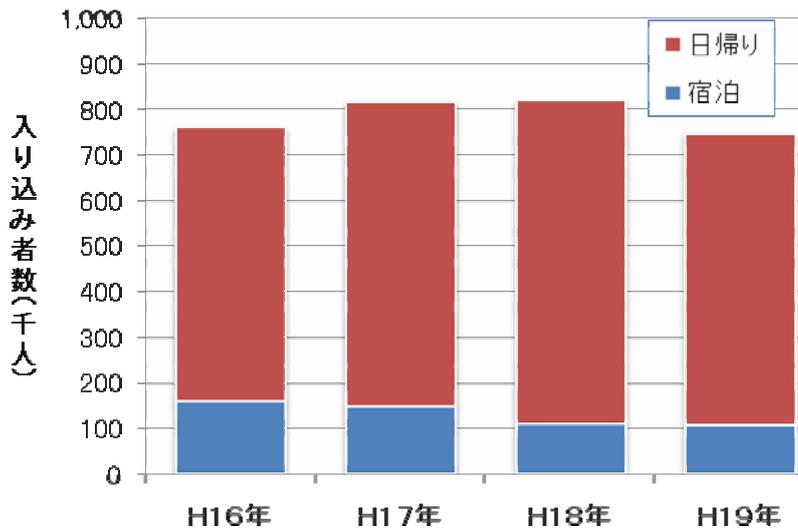


図2. 羅臼町の観光客入込み者数
(宿泊客、日帰り客の構成)
※各年とも12月のデータは含んでいない
データ: 羅臼町観光統計資料

5月に公園内羅臼側の拠点であるビジターセンターが移転・新築され、旧VCの約3倍の来館利用があったが(3-6参照)、町全体の入り込み者数への大きな影響はなかった。



新羅臼VC外観



新羅臼VC館内の様子

2. 知床半島先端部地区

2-1. 知床岬

平成19年度の利用状況は、カウンターデータによると116人となっており、前年の139人から減少している。減少の要因は、平成18年4月発表の「知床半島先端部地区への立ち入り自粛要請」の効果と一過性の世界遺産ブームの影響が薄れたものと思われる（下表3-1参照）。カブト岩手前の赤岩水産番屋漁師へのヒアリングにおいても、「遺産登録の前後は増えたが、長期的にはトレッカーの数は減っているように感じる。」とのことであった。

また、徒歩以外での岬の利用はカヤック、行政が参画しているゴミ拾い活動などが挙げられるが、それぞれ、カヤック利用が100~150人程度、清掃活動が200人程度と推測され、平成19年度の徒歩も含めた知床岬の利用者数は500人弱程度であると思われる。

岬へ続く海岸線の状況は、トレッカーによると思われるゴミはほとんど確認できなかったが、野営地となりうる場所でトイレの跡が確認された。また、念仏岩、カブト岩といった高巻きとなる難所部のルートは踏圧による浸食や崩壊が見られた。

表3-1. 知床岬・知床沼方面 カウンターによる入山者数測定結果(人)

		6月	7月	8月	9月	10月	計
H 16年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	30	151	110	56	15	362
	知床沼方面入山者(B)	12	94	50	21	12	189
	知床岬方面(A-B)	18	57	60	35	3	173
H 17年	知床岬・知床沼方面入山者(A')	34	134	144	45	0	357
	知床沼方面入山者(B')	18	33	69	21	3	144
	知床岬方面(A'-B')	16	101	75	24	▲3	213
H 18年	知床岬・知床沼方面入山者(A'')	36	120	134	28	14	332
	知床沼方面入山者(B'')	43	39	88	22	1	193
	知床岬方面(A''-B'')	▲7	81	46	6	13	139
H 19年	知床岬・知床沼方面入山者(A''')	6	117	97	26	10	256
	知床沼方面入山者(B''')	24	31	70	15	0	140
	知床岬方面(A'''-B''')	▲18	86	27	11	10	116
前年比 (H 18年)		-	106%	59%	150%	77%	83%
H 17年比		-	85%	36%	38%	-	54%
H 16年比		-	85%	36%	38%	-	54%

データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)

例年特に立ち入り者が集中するお盆時期を中心に、知床岬地区の現状把握を目的とし、立ち入り状況調査が実施された。結果は表3-2に示すとおり、7日間の立ち入り者は23組96人、一日当たりの平均立ち入り者数は13.7人であった。その内訳は、動力船での立ち入り者が11組61人、非動力ではシーカヤックが7組22人、徒歩が5組13人であった。

調査期間中に実際に上陸を確認した総計18グループのうち聞き取りを行えたのは15組で、そのうち14組が立ち入り自粛要請について「知っていた」と答えた。

表 3-2. 知床岬地区の立ち入り者数 調査年別比較

調査年	調査期間	調査日数	立入者数		平均 文吉	動力船		シーカヤック		徒歩	
			文吉	文吉		グループ	人数	グループ	人数	グループ	人数
H8	8/12～18	7	141		20	19	78	6	13	6	50
H9	8/11～16	6	353		59	42	299	4	24	6	30
H10	8/12～21	9	200		22	24	123	5	25	6	52
H13	8/10～13	6	83		14	12	44	1	2	6	37
H14	8/18～19	12	203		17	34	124	5	21	13	58
H15	8/12～17	6	80	84	13	15	60	1	1	7(9)	19(23)
H16	8/6～16	11	114	149	10	14	69	5	28	9(21)	23(52)
H17	8/12～19	8	66	100	8	8	39	5(6)	15(16)	5(10)	26(45)
H18	8/11～17	7	89		13	10	40	4	34	5	15
H19	8/11～17	7	96		14	11	61	7	22	5	13
前年比			108%		105%	110%	153%	175%	65%	100%	87%
H16年比			84%		137%	79%	88%	140%	79%	100%	50%

※()内は相泊から赤岩間でカウントされた人数を含む。

データ: 知床岬立ち入り実態調査(知床財団)

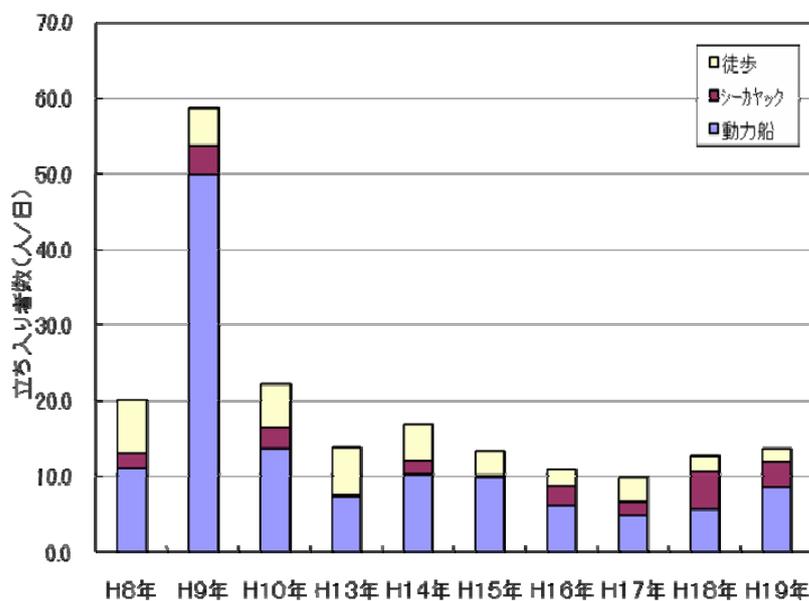


図 3. 知床岬地区（文吉湾～赤岩）への1日あたりの平均立ち入り人数（8月中旬）

データ: 知床岬立ち入り実態調査(知床財団)



赤岩周辺の漂着ゴミ

2007/06/04

2-2. 知床沼・知床岳

平成19年度の利用状況は、カウンターデータによると140人となっており、前年の193人から大きく減少している。(下表4参照)。減少の要因は、知床岬と同様に、平成18年4月発表の「知床半島先端部地区への立ち入り自粛要請」の効果と一過性の世界遺産ブームの影響が薄れたものと思われる。

利用者の目的地は、知床沼とその先の知床岳になる。知床沼の場合は知床沼若しくは標高400m付近の青沼で野営を行う1泊2日の行程が標準となる。知床岳の場合は、知床沼を野营地として2泊3日の行程が標準的なスタイルとなっている。8/23,24日に環境省が行った現地調査では、比較的新しい利用による影響として、青沼での焚き火跡とトイレ跡、ポロモイ台地への急登の崩落、知床沼周辺の植生の荒廃が認められた。また、知床岳へ向かうハイマツ林内の枝や根の伐採の痕跡も新たなものではないが多く確認できた。

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	
H19年	入山者数	24	31	70	15	0		140	
		前年比	56%	79%	80%	68%			
		H.17年比	133%	94%	101%	71%			
	H.16年比	200%	33%	140%	71%				
	下山者数	21	32	66	13	0		132	
		前年比	78%	74%	132%	54%			
H.17年比		140%	89%	165%	65%				
H.16年比		191%	40%	169%	62%				
H18年	入山者数	43	39	88	22	1	6	199	
	下山者数	27	43	50	24	1	5	150	
H17年	入山者数	18	33	69	21	3	0	144	
	下山者数	15	36	40	20	0	0	111	
H16年	入山者数	12	94	50	21	12	2	191	
	下山者数	11	80	39	21	12	0	163	

表4. 知床沼・知床岳方面 カウンターによる入下山者数測定結果

平成16年は、9/19～10/8間のデータがバッテリー切れのため欠損データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)



青沼たき火跡 (H19/08/23)



青沼トイレ跡 (H19/08/23)



湿原植生の荒廃（H19/08/23）



表土が流出した、ポロモイ台地へ上がる斜面
（H19/08/23）

3. 知床半島中央部地区

3-1. 知床五湖地域

平成19年の知床五湖駐車場利用台数は前年比88%、約1万台減となったが、遺産登録前の平成16年比では114%、依然として約1万台多い(表5)。月別に見ると4月の利用台数は大きく増加したものの、5~6月は減少傾向が見られた。一方利用者の多い8~10月は前年の9割以上の台数が維持された(図4)。全体的に減少傾向が見られたものの、遊歩道の混雑は例年と変わっていない。なお、今年も適正な利用を促進するため、チラシやHPによる啓発を実施した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
H16年度	640	7186	6474	10843	17082	14569	8704	143	65641
H17年度	490	6107	8767	15034	21741	17449	12043	1167	82798
H18年度	627	8401	10675	16259	20867	16454	10234	1184	84701
H19年度	1185	7096	8612	12794	20304	14975	9297	616	74879
前年比	189%	84%	81%	79%	97%	91%	91%	52%	88%
前前年比	242%	116%	98%	85%	93%	86%	77%	53%	90%
H16比	185%	99%	133%	118%	119%	103%	107%	431%	114%

表5. 知床五湖駐車場における駐車台数 年別比較

データ:(財)自然公園財団資料

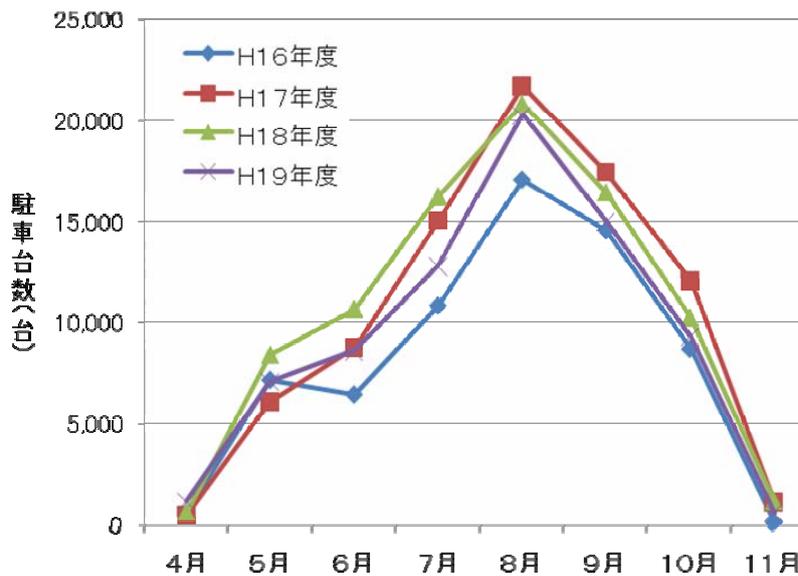


図4. 知床五湖駐車場における駐車台数 年別比較

データ:(財)自然公園財団資料



五湖入口における渋滞時の様子(8月14日)



混雑するトイレの様子(10月13日)

本年度の高架木道の総利用者数は約 25 万人となり、6 月から 10 月まで毎月とも 3 万人以上の利用があった。高架木道の利用者数が最も多かったのは 7 月であり、また 6 月と 7 月の各高架木道利用者数は各月の遊歩道利用者数を大きく上回った。一方、6 月と 7 月の各遊歩道利用者数は 4 万人台を割っており、11 月を除く各月遊歩道利用者数より低い結果となった。これは 6 月後半から 7 月末までの間に知床五湖エリアでヒグマが頻繁に出没し、遊歩道が全面閉鎖される状況が度々起こったため、利用者が遊歩道の代わりに高架木道を利用せざるを得なかったことによるものと推測される。

駐車台数とシャトルバス利用者数より推計された本年度の知床五湖園地利用者数は約 59 万人となり、昨年約 68 万人と比較すると約 10 万人、14%減となったものの、世界遺産登録前である平成 16 年約 45 万人と比較すると、まだ約 14 万人、31%多い。五湖園地利用者数が減少した主な理由として、斜里町全体の観光客入込数が 5～11 月の 7 ヶ月間合計で昨年比 181,926 人、13.1%減（斜里町観光統計より）となったことがあげられる。また、五湖駐車台数から推計した 6 月と 7 月の五湖園地利用者数の前年比率はそれぞれ 81%となっており、11 月を除く各月の五湖園地利用者数の前年比率と比べて最も低い数字となっている。この結果からヒグマ出没による五湖遊歩道の閉鎖も五湖園地利用者数に少なからぬ影響を与えているものと推測される。

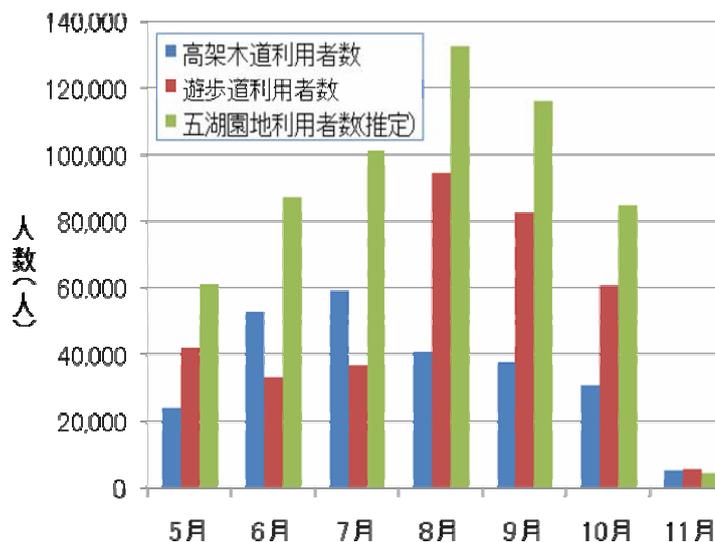


図 5-1. 高架木道と遊歩道及び知床五湖園地の月別利用者数の推移
データ：カウンターによる利用者数調査（環境省）

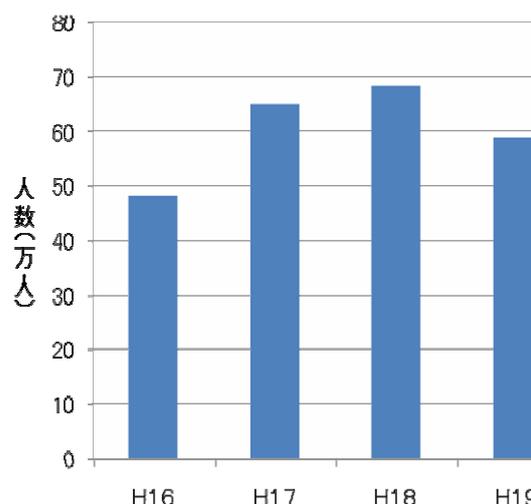


図 5-2. 知床五湖園地利用者数の年次推移
データ：自然公園財団及び斜里バス（株）

※高架木道、遊歩道利用者数はカウンター測定値を使用。

知床五湖園地利用者数は駐車台数及びシャトルバス乗車人数から推計した月別推定利用者数を使用。



周回歩道利用状況(6月26日)



新高架木道利用状況(9月12日)

3-2. カムイワッカ地域

シャトルバスの平成19年の総乗車人数は、7月13日～9月20日の70日間で合計29,014人（ウトロ温泉バスターミナル、知床自然センター、専用駐車場からの利用者）であり、同じく70日間の規制期間であった前年と比較して7%減少した。平成12年からデータが揃っている8月1日から8月17日の間のシャトルバス乗車人数について8年間の比較を行うと、今年度が最も少ない利用者数であった（図6-1）。

今年度は利用者の大きな怪我などの重大な事故は起きなかったが、立ち入り制限区域への立入りなどの問題行為が確認された。またヒグマが頻繁に目撃され、追い払い等の対応が行われた。

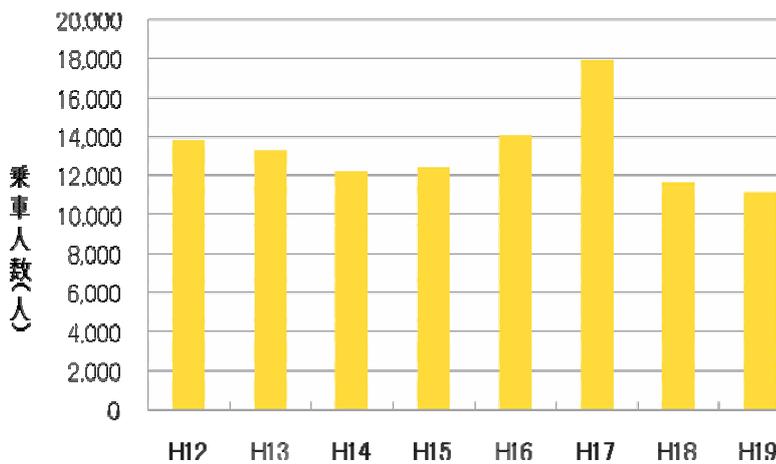


図6-1. シャトルバス乗車人数(8/1～8/17)

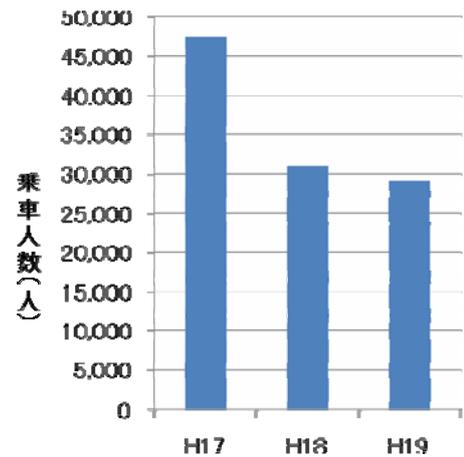


図6-2. シャトルバス乗車人数(7/13～9/20)

※平成13年度までは自然センターと専用駐車場からの

乗車人数のみカウント

※平成14年度以降はウトロ温泉バスターミナルからの

乗車も含めてカウント

データ:カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会資料



シャトルバスを待つ利用者(8月23日)

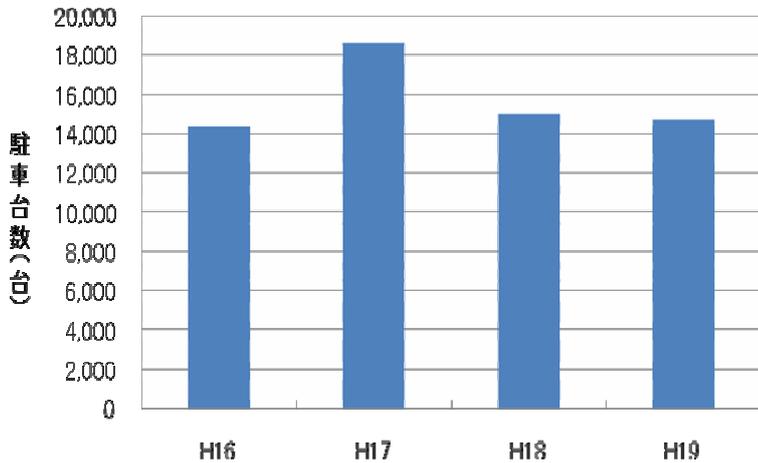


一の滝の利用状況(8月12日)

3-3. ホロベツ地区

(1) 知床自然センター

平成19年のカムイワッカ地区自動車利用適正化対策実施期間のうち、平成16年からのデータが揃っている8月1日～23日における知床自然センターの駐車台数は前年とほぼ等しい約1万5千台となった(図7)。また、自然センター利用者数の指標としてダイナビジョン映像の利用者数をみると、前年に比べ約2万4千人の減少となっており、(図8)個人、団体利用者双方の減少に起因していることが図9から読み取れる。



なお来館者数は減少しているものの、繁忙期にはインフォメーションカウンターにおいて電話、窓口対応に追われる状況が今年も発生した。また、秋季は観光船が欠航した際、自然センターが混雑する傾向が顕著にみられた。

図7. 知床自然センター駐車場の駐車台数 年別比較

(8/1～8/23の23日間)

データ:カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

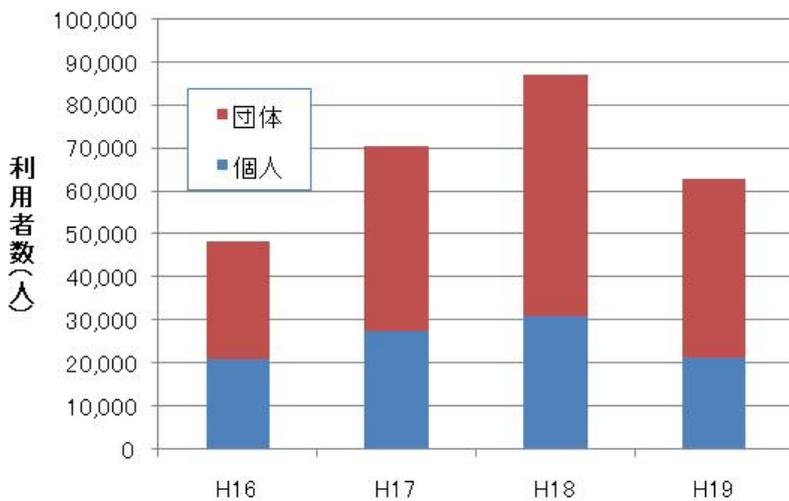
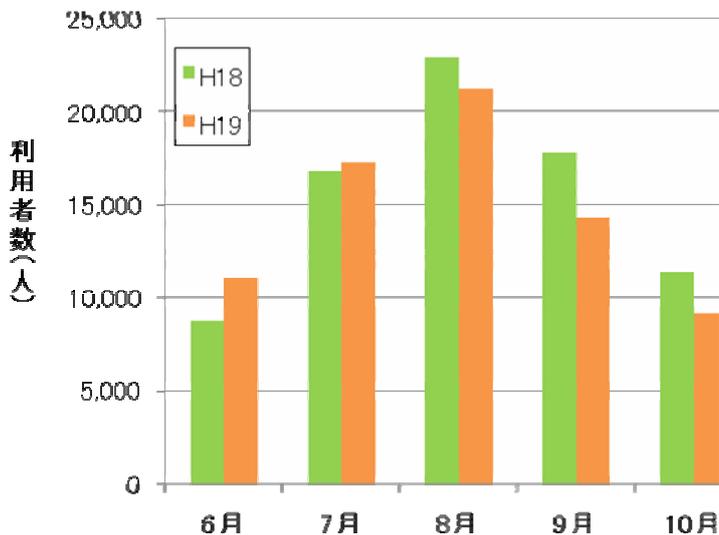


図8. 知床自然センターダイナビジョン利用者数 年別比較 (人)

データ:知床自然センター資料

(2) フレペの滝遊歩道



平成19年度調査期間中(6月～10月)のフレペの滝遊歩道総利用者数は、前年より約5千人減少の73,075人となった。月毎に見ると6、7月は若干の増加傾向、8～10月は減少傾向であり、最大は8月の21,656人であった(図9)。

図9. フレペの滝遊歩道利用者数 カウンター測定値

※H18の調査期間は6月8日～10月31日

データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)

3-4. 知床連山地域

2007年の総入山者数は過去4年間で最も少なく8千人を割り込む結果となった。昨年度から道道知床公園線の落石防止対策に伴い硫黄山登山口が閉鎖となっており、2年目となる本年度はその規制に関する周知が更に進んだものと推測される。

知床連山岩尾別登山口付近には多くの自動車を利用できる駐車場が整備されておらず、利用者の多い季節には道路沿いに多数の路上駐車が列を作る。本年度は斜里町により、落石の危険のため駐車を禁止する標識が道路沿いに設置されたが、7月中旬の連休期間中路肩駐車が急増、特に7月15日午前中には駐車台数が102台を数え(14日39台、16日40台)、シャトルバス、及び観光バスの運行に支障をきたし、警察が出動・対応する事態が発生した。なお、調査期間中*1(7/13~9/20)、7月の連休期間以外では路肩駐車台数は殆ど10台以下に留まっている。

*1巡視員が自然センター前9:00発のシャトルバスに乗って岩尾別温泉を経由する際にカウントしたもの。

表6. 知床連山登山道における総入下山者数 カウンターによる測定結果(6/17~10/31)

カウンター設置地点		岩尾別	硫黄山	湯ノ沢	合計
2004年	総入山者数	8,884	987	658	10,529
	総下山者数	8,255	1,639	651	10,545
2005年	総入山者数	9,742	227	518	10,487
	総下山者数	8,947	776	504	10,227
2006年	総入山者数	9,057	-	550	9,607
	総下山者数	8,779	-	543	9,322
2007年	総入山者数	7,038	-	647	7,685
	総下山者数	7,361	-	595	7,956
前年比	総入山者数	78%	-	118%	80%
	総下山者数	84%	-	110%	85%
前前年比	総入山者数	72%	-	125%	73%
	総下山者数	82%	-	118%	78%

データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)

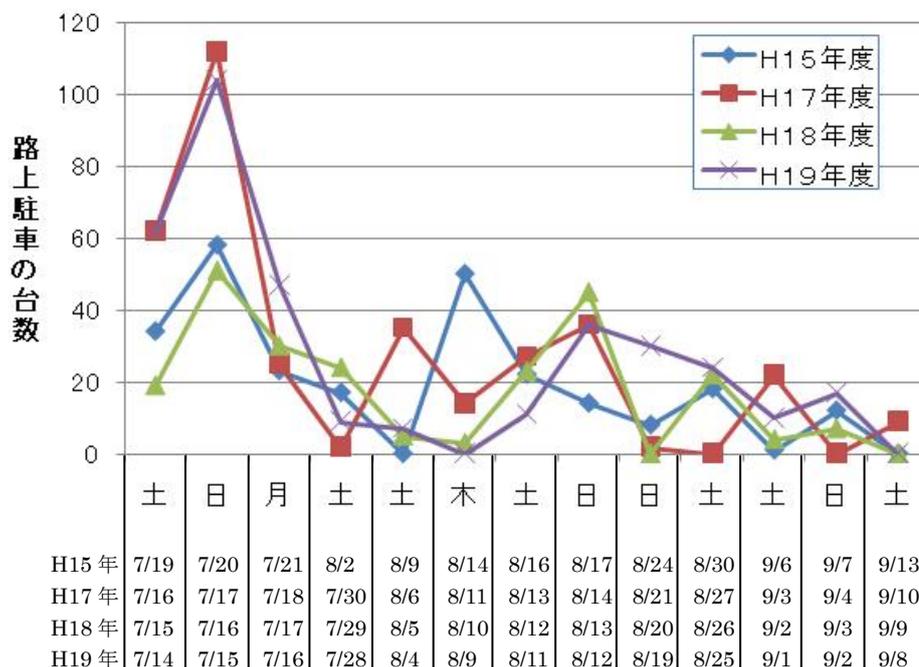


図10. 岩尾別登山口路上駐車台数(台) 年別比較

データ:路上駐車台数調査(環境省)



路上駐車状況（7月14日）



雪渓を避けて植生を踏みつける利用者（8月4日）

平成19年も登山道沿い、特に弥三吉水、銀冷水、羅臼平等の休憩ポイントでトイレ跡が目立ち、利用者からは、携帯トイレの回収ボックスの設置を望む声などが聞かれた。また、昨年に引き続き、登山道の浸食や登山道脇の植生への立入り、ストックでの突き刺しによる裸地化等が確認された。



羅臼平付近のトイレ跡（7月15日）



ストックを使用する利用者（8月14日）

3-5. 羅臼湖地域

カウンターデータによる平成19年度の羅臼湖の利用者数は4,693人となり、平成17年の利用者数7,382人、平成18年度の利用者数5,921人から大きく減少している。

減少の要因は、団体ツアーによる利用が減少したことが大きいですが、羅臼湖入口付近への駐車防止措置やエコツーリズム推進協議会により策定されたガイドラインの発効も寄与していると考えられる。

利用者数が遺産登録前の状態に戻りつつある事に加え、平成18年同様、長靴利用の推進など適正な利用を促進するためのチラシやHPによる啓発の実施、根室支庁による維持補修及び同庁主導による官民協働の維持活動により歩道のぬかるみや洗掘への対策が行われるなど過剰利用に起因する影響は軽減されてきていると言える。

表7. 羅臼湖歩道における総入下山者数 (6/19~10/31) データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	
平成19年	入山者数		200	1361	1523	965	642	2	4693
		前年比	65%	65%	88%	75%	137%		
		H.17年比	35%	105%	63%	59%	46%		
		H.16年比	27%	89%	95%	85%	92%		
	下山者数		179	1434	1568	938	609	2	4730
		前年比	57%	67%	94%	73%	136%		
		H.17年比	30%	109%	68%	56%	44%		
H.16年比		24%	101%	102%	75%	89%			
平成18年	入山者数	309	2091	1732	1292	467	30	5921	
	下山者数	312	2130	1662	1287	448	25	5864	
平成17年	入山者数	574	1300	2410	1640	1394	64	7382	
	下山者数	598	1321	2302	1672	1394	66	7353	
平成16年	入山者数	732	1521	1610	1140	697	—	5700	
	下山者数	748	1423	1536	1247	681	—	5635	

H.16年・17年は、18・19年に比べて6月の入山カウンターの設置が11日間早い



羅臼湖歩道二の沼のぬかるみ



二の沼歩道浸食部の階段補修後



羅臼湖歩道浸食の様子



羅臼湖入口 駐車ご遠慮看板完全設置



羅臼湖入口白線またぎ駐車

3-6. 羅臼温泉地区

(1) 羅臼ビジターセンター

知床横断道路を知床峠方面へ 700m ほど進んだ場所へ移転・新築された羅臼ビジターセンターは 5/24 日の開館以来、道内、道外から多くの利用者が訪れ 10 月末には来館者数が 25,000 人を超え、これまでの年間来館者数である 8,000 人を大きく上回った。

夏には羅臼ビジターセンターのパンフレットを作成し、頒布している。また秋には羅臼ビジターセンターウェブサイトを新たに公開し、羅臼を中心とする知床国立公園の自然・利用の最新情報を全国へ発信している。

また、国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業により、月に一度、主に羅臼町民を対象とした「知床らうす自然講座」を開催している。

表 8. 羅臼ビジターセンター利用者数(人) 年別比較

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H16年度	96	244	198	191	621	869	1,287	1,684	1,093	1,153	232	107	7,775
H17年度	106	355	262	220	457	858	1,402	1,833	1,258	1,201	270	122	8,344
H18年度	83	269	296	379	603	1,170	1,346	1,770	1,106	1,203	257	144	8,626
H19年度	141	307	334		1,218	4,805	5,403	6,343	4,327	3,034	567	211	25,908
前年比	170%	114%	113%	0%	202%	411%	401%	358%	391%	252%	221%	147%	300%
前前年比	133%	86%	127%	0%	267%	560%	385%	346%	344%	253%	210%	173%	310%
H16比	147%	126%	169%	0%	196%	553%	420%	377%	396%	263%	244%	197%	333%

データ: 羅臼ビジターセンター資料

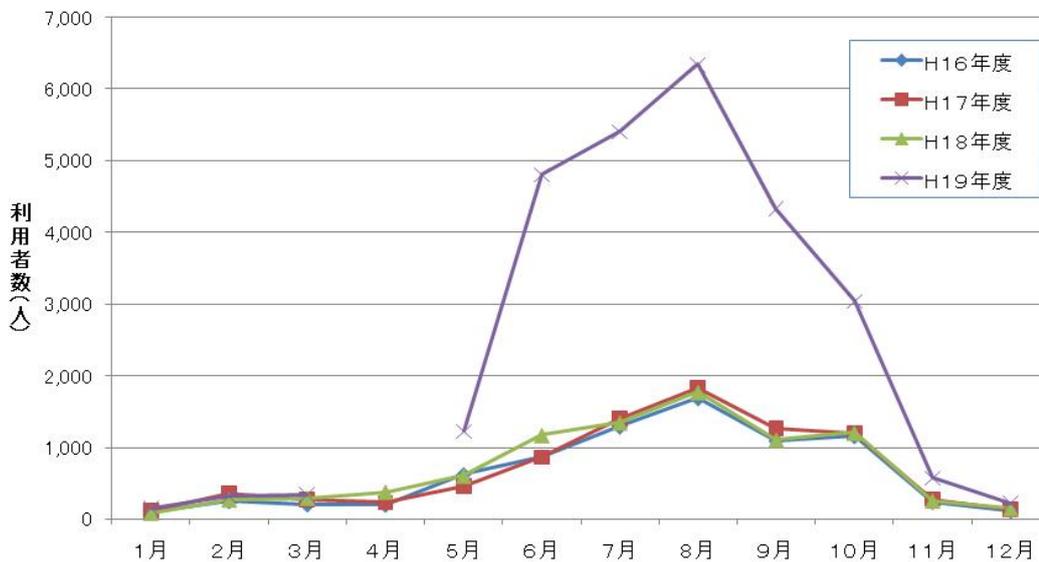


図 11. 羅臼ビジターセンター利用者数(人) 年別比較

データ: 羅臼ビジターセンター資料

(2) 熊越えの滝

平成 18 年の利用者数 1,261 名と比べると平成 19 年は 1,167 名とやや少なくなったが、利用者の総数はあまり多くないため、ほとんど変化が無いと言える。

6 月と 10 月の利用の集中は、6 月と 10 月は時間に余裕のある個人客が多く、羅臼ビジターセンターに立ち寄り、熊越の滝遊歩道の情報を得た結果であると推察される。

シーズン中は自然ガイドによる自然観察のフィールドとして利用されているほか、羅臼

ビジターセンターが早朝お散歩観察会を開催するなど、比較的気軽に知床の原生的な自然が楽しめる歩道として、地域住民を中心に親しまれている。(表 9)。

表 9. 熊越えの滝歩道における総入下山者数 カウンターによる測定結果

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
平成 19 年	入山者数	185	248	307	187	228	12	1167
	前年比	128%	79%	78%	82%	137%		
平成 18 年	下山者数	221	266	330	199	246	14	1276
	前年比	144%	82%	84%	87%	140%		
平成 18 年	入山者数	144	315	396	228	166	12	1261
	下山者数	153	324	393	229	176	12	1287

データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)

4 野生動物

4-1. ヒグマとの軋轢

今年度は公園内各所で以下のようなヒグマの出没事例が確認されており、利用にも大きく影響を与えている。

- ・ 船泊のモイレウシ湾とペキンの鼻

7月から8月にかけては、船泊のモイレウシ湾とペキンの鼻において、サケ・マスの釣り人が頻繁にヒグマを目撃しているという情報が入った。このうちモイレウシでは、至近距離でヒグマを目撃した釣り人が、逃げる途中で転倒してアキレス腱を切断する事例があった。

- ・ 知床五湖地上歩道の閉鎖

今年度は知床五湖地区周辺でのヒグマの活動が活発となる6月中旬から8月中旬に、ヒグマの出没が相次いだ。ヒグマの侵入ルートを遮断する目的で電気柵を設置したが、電気柵の設置されていない1湖西側からの侵入が複数確認され、ヒグマの目撃は継続、知床五湖地上遊歩道は頻繁に全面閉鎖することを余儀なくされた。目撃事例の中には、1-2湖周回路を散策する利用客が3mの距離でヒグマと出会い、騒いだ為、ヒグマに威嚇される、町道五湖道路上に現れたヒグマ親子により道路が一時通行止めになるなど事故に繋がりがねない危険な事例が少なくとも10件確認された。

また、10月中旬から11月上旬にかけては、標識付きメス成獣による4-5湖付近への定着が確認された為、3-5湖遊歩道が長期閉鎖された。

- ・ カムイワッカ1の滝での出没

今年、カムワッカ周辺ではヒグマが頻繁に目撃された。人の利用が集中する1の滝周辺での目撃も12件あった。利用者が至近距離でヒグマを目撃し、バスの中に一時退避する、ヒグマが1の滝から約30m上流で沢を横断するなど、危険性が高いと考えられる事例もあり、現場全体での対応方針の整理が行われた。なお8月16日の追い払い実施以降、ヒグマの出没頻度は低下した。

- ・ フレペの滝歩道での接近遭遇

6月29日から7月1日にかけて、ヒグマが利用者から数mの距離まで接近してくるという事故に繋がりがねない危険な事例が3件報告された。これらの事例では、ヒグマがシカを追いかけていたという情報があり、シカを追いかけるヒグマが人に気が付かず接近したと考えられる。これに対して、

看板等により利用者への情報の周知や、パトロール強化などの対策が行われた。

- ・ 岩尾別温泉でのゴミ漁り

7月25日、ヒグマがホテルのゴミ捨て場を漁るという事例が発生した。ホテルへのゴミ管理の徹底の要請とともに、温泉利用者、登山客向けにゴミや食料管理を徹底する旨を記した看板の設置やパトロールの強化等の対策が行われた。

- ・ 国立公園内道路沿いの渋滞、事故等

特に6月から8月上旬にかけてヒグマを観察するために停止した車の渋滞が頻繁に発生した。観光客の一部には車両を降り、撮影のためヒグマに近づくものもいた。また、7月29日にはヒグマ見物で渋滞していた車両の最後尾に2輪車が追突する交通事故も発生している。また、8月下旬から10月上旬にかけては、道道知床公園線の岩尾別川河口を見下ろす急カーブ地点や町道岩尾別温泉道路沿いにサケマスを捕食するヒグマの撮影や見物を目的としたカメラマンや観光客が集まり、車両の駐停車やそれに伴う渋滞等が発生した。

- ・ 知床横断道路

1歳2頭連れの親子3頭が、毎日のように知床横断道路(国道334)沿線で目撃された。この親子は、昨年知床峠付近で頻繁に目撃され、餌付けがされたという情報もあった親子と同一個体であった可能性が高い。国設キャンプ場と近くに位置する羅臼温泉園地遊歩道は、この親子が目撃されたために6月4日から14日まで閉鎖された。出没の都度あらゆる手段で負い払いを試みていたが、6月20日には横断道路上で車両の渋滞を発生させ、追い払い対応者の車に何回か向かって来た後に、延々と車道上を移動した後、車道脇でシカを捕獲、採食するという状況が発生した。それまでの経緯も踏まえ、翌朝に親子3頭が駆除された。

また、11月7日には、横断道路を走行中の乗用車が、道路を横断しようとしたヒグマと接触事故を起こして、車が破損するという事故が発生している。

- ・ 知床連山での出没

7月11日から14日にかけて羅臼平三峰側の雪渓近くで同一とみられる単独のヒグマが頻繁に目撃され、その件数はのべ14件に上った。登山口への注意喚起の看板の設置や、登山者からの情報収集による状況の把握が行われている。

また11月14日に羅臼岳下山中の登山者3名が、羅臼温泉登山口に至る直前の登山道上で親子グマと遭遇し、一端道沿いの上方に避難したが、夕方暗くなってしまったことから、結局登山道の左右に分かれた親子グマの間を通過して下山するという状況があった。遭遇時に携帯電話で根釧東部森林管理署に連絡したことから、警察やハンターを含む対応となった。

- ・ 羅臼湖歩道

8月23日に羅臼湖遊歩道入口付近において、利用者が近距離でヒグマに唸られたという情報に基づき、誘因物の探索やパトロール、一般利用者への情報提供が行われた。このヒグマについては、その後同一個体と推定される目撃情報はあったものの、危険性の高い状況には至らなかった。



岩尾別河口を見下ろす急カーブの渋滞状況



岩尾別のホテルでヒグマが漁った空き缶



五湖ストレート交通事故 (07/07/29)



知床五湖地上歩道閉鎖の様子 (07/06/26)

4-2. 海域の利用と野生動物に対する影響

知床半島斜里町側海岸線の岸壁と沿岸部は、ケイマフリ、オオセグロカモメやウミウを始めとする海鳥類の重要な営巣地と採餌場になっているが、沿岸部を頻繁に航行する観光船にその活動を阻害されている懸念がある。昨年度に引き続き、今年度も観光船航路をGPS受信機で記録し、海鳥の営巣地周辺での観光船の航路、航行速度、滞在時間、行動等についての調査が行われた。

調査は8月7日から8月11日までの期間に、硫黄山往復路について4社4便、ルシヤ往復路1社1便および知床岬往復航路について各々1社2便、計6社7便について実施した。

フレペの滝から男の涙付近では、岸から最短約5mを航行していたが、五湖断崖付近では、岸への接近は確認されなかった(図12-1、12-2)。ヒグマやイルカを発見した際に停船し、約2-3分の滞在をした以外、観光船の航行速度は20~30km/hでほぼ止まらずに運航していた。

オオセグロカモメ等に対する海鳥への餌付け行為に関しては、今年度も確認されなかった。餌付け行為は、世界遺産登録を契機に行われなくなっている。

8月24日には、羅臼沖で捕鯨船によるツチクジラ捕獲作業をクジラウォッチング船が目撃、観光船が捕鯨船に接近、危険運航を行ったとして、捕鯨船会社が観光船業者に抗議するという事例が発生した。また、9月15日には、知床半島沖で漁船と遊漁船の衝突事故が発生した。時期と時間帯によっては観光船の運航スケジュールは過密状態となっている上、観光船以外にも知床半島沖は漁船、遊漁船、カヤック等が多く航行している。航路等については、北海道運輸局の特別監査から2年が経過しており、定期的な監査の実施が望まれる。さらに、近年になって羅臼側で増加している海生哺乳類の観察を目的とした観光船についても、海生生物にも配慮した運行ルールの策定を進めていく必要があると考えられる。

お盆期間中には臨時便が運行されており、期間中は天気が良く風も弱かった為、観光船が航行した後には排出された黒煙が海上に滞留し、自然探勝の雰囲気を損ねていた。



図 12-1. フレペの滝・男の涙周辺の航路

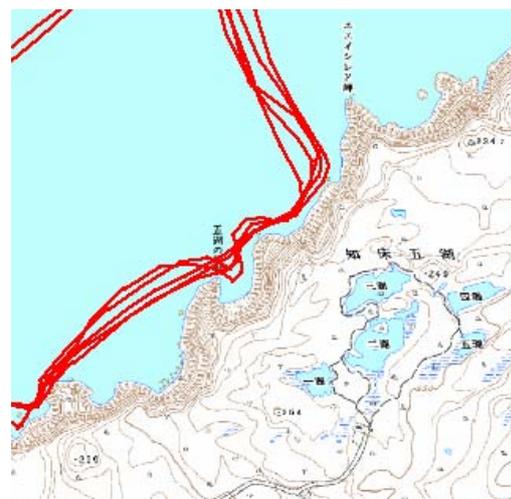


図 12-2. 五湖の断崖・柱状節理周辺の航路



小型観光船の岩礁への接近状況（右）（左）



観光船と捕鯨船の様子